

防 除 所 ニ ュ ー ス

(平成18年度 第7号)

発行 8 月 31日
京都府病害虫防除所

豆類のハスモンヨトウ、吸実性カメムシ類、アズキの子実害虫類（アズキノメイガ、マメノメイガ、サヤムシガ類）に注意！

1 ハスモンヨトウ

(1) 発生予想

防除所が8月中旬に行った調査では、ハスモンヨトウの発生は平年に比べてやや少ないものの、フェロモントラップの誘殺数では、**並~やや多くなっている**。また、JAや普及センターからの報告でも**豆類に白変葉が認められている**と報告されており、**9月の発生はやや多い**と予想。

(2) 防除上の注意事項

早期発見に努め、幼虫分散前の白変葉を取り除く。なお、白変葉は、ダイズでは比較的容易に見つかるが、アズキでは生育ステージが早く、草丈が低かったり表皮を残さずに食害することもあるため見つけにくいので注意する。

齢が進んだ幼虫は周囲に分散し、かつ、薬剤の効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。その後も発生が多い場合は防除を行う。

2 吸実性カメムシ類

(1) 発生予想

防除所が8月中旬に行った調査では、吸実性カメムシ類の発生は平年並であるものの、病害虫調査協力員からの報告では、**一部の地域で発生が多い**と報告されており、**9月の発生はやや多い**と予想。

(2) 防除上の注意事項

ダイズへのカメムシ類の飛来は開花期直前から若莢着生期に始まる。

若莢期から10日おきに2~3回薬剤を散布する（薬剤によっては他の子実害虫類との同時防除が可能である）。なお、普通ダイズでは、紫斑病との同時防除も考慮する。

ほ場周辺に雑草地などカメムシ類の発生しやすい場所があると、被害を受けやすいので、除草を行う。

3 アズキの子実害虫（アズキノメイガ、マメノメイガ、サヤムシガ類等）

防除上の注意事項

子実害虫類は発生すると被害が大きく、被害を確認してからでは手遅れとなることが多いので、開花始め頃から十分な注意が必要である。

幼虫が莢や莢内に食入すると、防除効果が劣るので、幼虫ふ化時期~食入開始時期の防除が重要である。

開花始めから10日間隔で2~3回防除する。

4 天候について

気象台発表の1か月予報（8月25日発表）によると、「向こう1か月の気温は高く、降水量は少ないでしょう。日照時間は平年並または多い見込み。」と予想されており、これらの害虫の発生を助長しやすいと考えられますので、今後の発生に十分注意すること。

5 生育について

天候不順により播種遅れや播き直し等で、生育が遅れているほ場が見受けられます。このため、**例年と病害虫の発生様相が異なる場合もあるので、十分注意すること。**